

## 特別企画

### 「小中高等学校における外国語教育」

—文部科学省外国語教育推進室長 田淵エルガ氏 講演報告—

#### 1. 文部科学省外国語教育推進室長招聘

平成24年11月17日、英語教育センターワークショップに文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室長の田淵エルガ氏をお招きし、「小中高等学校における外国語教育」というテーマで講演していただきました。田淵氏は、現在、小学校・中学校・高等学校における外国語教育を充実させるための条件整備や調査・分析、その他、外国語教育推進のための諸施策の実施を担当されております。そのようなお立場から、昨年度から小学校外国語活動が本格実施され、本年度は中学校、来年度は高等学校で新学習指導要領が全面実施される中、我が国の外国語教育の現状とこれから学校教育に求められる英語教育について、グローバルな視点からお話していただきました。

#### 2. 田淵氏講演の内容

グローバル化が進む中、日本からの海外留学者数は減少傾向にあり、また「内向き志向」の若者が増えているとの指摘もあります。その一方で日本企業の海外進出にあたっての「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」が強く求められているとの調査結果もあります。文部科学省は生徒や教員に求められる英語力を具体的に示し、外国語教育を推進していますが、平成15年度の調査結果によると英語の授業が分からないとする中学生の割合が学年が進むにつれ増えるなど、課題があります。新学習指導要領では、小中高を通じてコミュニケーション能力を育成することを基本的な考え方として、小学校における外国語活動の導入、中学校における授業時数増、高等学校における授業での英語の使用、中高における指導語彙の充実等が盛り込まれました。小学校における外国語活動については、その実施状況についてアンケート調査が行われました。

講演の中で、外国語教育では、初めて英語に触れて楽しいと感じた気持ちを持続させることや、言葉を使って何かしたいという強い気持ちが学習の動

機付けになることなどが強調されました。また、語学力（英語力）の向上は、グローバル社会を生きる子供たちの可能性を広げ、個人としても国としてもより豊かになれる重要な要素だと述べられました。

文部科学省の具体的な取組としては、生徒に求められる英語力について達成状況を把握・検証するための事業、各学校が学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定するための手引き作成、英語学習のモチベーション向上を図るためのDVDの作成・配布、留学促進、ALT、ICTの活用促進、英語教員の英語力・指導力の強化、大学入試改善等を挙げられました。

### 3. 参加者の反応

ワークショップ当日は、英語教育に携わる現職の先生方を中心に約110名の方が集まりました。質疑応答では、少人数制のクラス編成とコミュニケーション能力向上の関連性や、小学校外国語活動導入後の中学生と導入以前の中学生の英語力の比較についてなど、現場の教員ならではの意見や感想が述べられました。以下、講演後のアンケートからいくつかの意見を紹介します。

- ・国が目指す英語教育の現在の方向性がわかり、良かったです。また、他国の流れも聞かせていただき参考になりました。（40代・男性）
- ・文科省の方針など聞かせて頂き勉強になりました。（40代・女性）
- ・日本が国民に求める英語力、それに伴った国の政策が聞けて現状が把握できました。（30代・女性）

文部科学省からの有益な情報を基に、国際共通語としての英語力とコミュニケーション能力を向上させるには、どのように授業を展開していくべきか意見を出し合う有意義な時間となりました。

\*巻末に当日田淵氏が講演で使われた資料を掲載しています。

（文責：山岡賢三）